CITIZEN®

取扱説明書

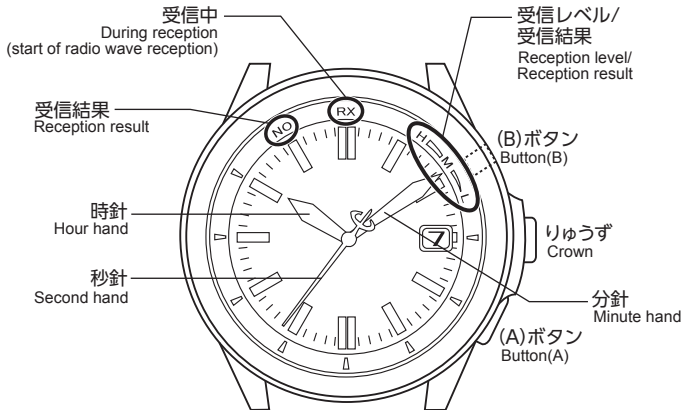
■この時計は日本国内の標準電波を受信する電波時計です■

自動的に電波の強い局を選んで受信する自動選局機能や、毎日午前2時と4時の2回、自動的に電波を受信して時刻やカレンダーを合せる定時受信機能、いつでも任意に時刻を合わせられる強制受信機能等を搭載した電波時計です。お客様による電波局の切り替えは不要です。

- 電波受信は日本国内の標準電波のみを受信します。海外の電波は受信できません。
- 日本標準時との時差がある近隣諸国で使用した場合は、日本の標準電波を受信して日本の標準時刻に修正されることがあります。
  その際は手動で時刻修正してください。

■十分に光を当てて充電してからご使用ください■

ご使用中に時計の秒針が2秒毎に運針している場合は、充電不足をお知らせしています。直射日光下で約8時間充電してからご使用ください。

エコドライブ電波時計を快適にご使用いただくためには、常に充電を心がけてご使用いただくことをおすすめいたします。

お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

The illustrations shown in this manual may differ from the actual watch you have purchased.

この取扱説明書をお読みいただく際は、左ページの時計図を開いた状態でお読みください。

When reading this instruction manual please keep the watch diagram at left folded out and in view.

この時計の修理について

この時計は、バンドを除くすべての修理は、「メーカー修理」となります。
修理、点検の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

Repairs

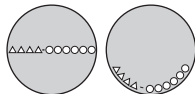
All parts of this watch, excluding the band, are to be repaired only at CITIZEN. Please have all inspections and repairs performed at a Citizen Consumer Help Desk or Customer Support Center.

このたびは、シチズンウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

シチズンホームページ（http://citizen.jp/）でも操作説明がご覧いただけます。
また、モデルによっては、外装機能（計算尺、タキメーターなど）が搭載されているものもあり、取扱説明書に記載されていない外装機能の操作も同様にご覧いただけます。

機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む4ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。
この番号を「側番号」といいます。側番号の先頭の4ケタが機種番号になります。
図では「△△△△」が機種番号です。

＜刻印の位置の例＞

時計によって表示位置は異なります。

安全にお使いいただくために— 必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

絵表示	説明
	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

＜保護シールについて＞

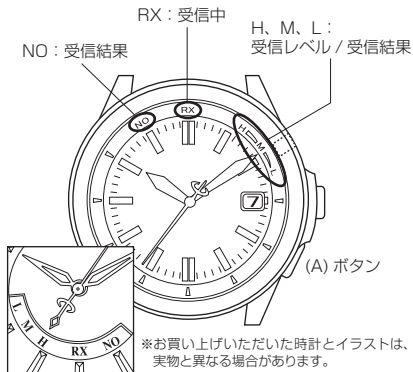
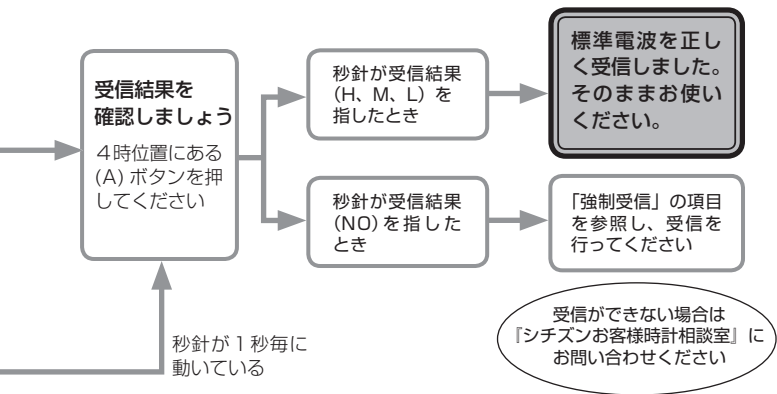
時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

＜バンド調整について＞

お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）

バンドの調整は、お買い上げ店にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

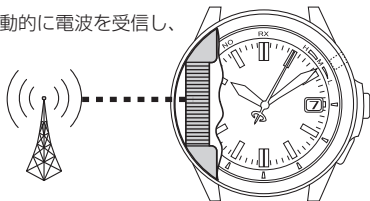
ご使用になる前にお確かめください

受信結果を
確認しましょう
4時位置にある
(A) ボタンを押
してください
秒針が受信結果
(H、M、L) を
指したとき
標準電波を正し
く受信しました。
そのままお使い
ください。
秒針が受信結果
(NO) を指した
とき
「強制受信」の項目
を参照し、受信を
行ってください
受信ができない場合は
『シチズンお客様時計相談室』に
お問い合わせください
秒針が1秒毎に
動いている

受信について覚えてください

定時受信（自動受信）

毎日午前2時と4時の決まった時間に、自動的に電波を受信し、時刻やカレンダーを合わせます。

〈受信の方法〉

時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

〈受信の確認〉

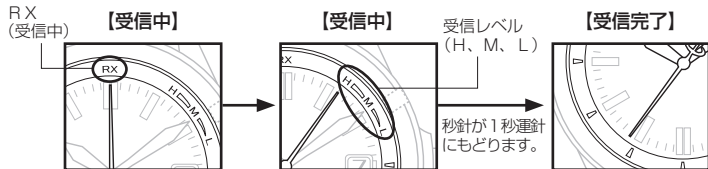
正しく受信したかどうかは受信後、4時位置にある (A) ボタンを押し、受信結果を確認してください。秒針が「H、MまたはL」を指した場合は、受信が正しくできたことをお知らせしています。そのままご使用ください。
秒針が「NO」を指した場合は、受信ができなかったことをお知らせしています。
強制受信を行ってください。

強制受信（手動受信）

いつでも受信できます。受信環境等が変わって、定時受信等ができなかった場合に行ってください。時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。**強制受信中は時計を動かさないでください。**（最大 15 分お待ちください）

1) ４時位置にある (A) ボタンを約２秒押し、秒針がＲＸに移動したことを確認し、指を離してください。

2) その後、秒針がＲＸから受信中を示す「Ｈ、Ｍ、Ｌ」に移動します。

3) 受信が完了すると、秒針が「Ｈ、Ｍ、Ｌ」から１秒運針に移行します。

＊詳しい受信の仕方は､本文の「３. 電波の受信方法」をご参照ください。

光が当たらない場所で長期間保管した場合は

１週間以上、時計に光が当たらない場所で保管すると、パワーセーブ（節電機能）が働き、時計機能の一部が停止します。

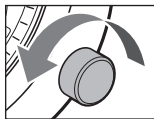
＊パワーセーブについては、本文の**「6. A. パワーセーブ機能について」**をご参照ください。

目　次

1. 商品の特長

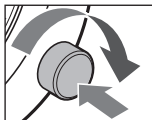
この時計は、日本国内の２局の電波送信所（福島局と九州局）から送信される、標準電波（時刻情報）を自動選局し､時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。また、光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させる、光発電機能を持ったエコドライブ電波時計です。ソーラーセルに光が当たっていないときの時計の電力消費を抑える、パワーセーブ機能等も搭載しています。

〈りゅうずについて〉
モデルによって、りゅうずがねじロック式の場合があります。操作しないときにりゅうずをロックすることで、誤操作を防ぐことができます。時計を操作するときは、ロックを解除してください。
※ねじロック式ではない場合は、上記の操作をすることなくお使いいただけます。

操作する前に

りゅうずのロックを解除する

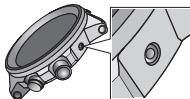
りゅうずを左にまわす。

*ロックが解除されると、りゅうずがせり出し、通常位置になります。

操作後は

りゅうずをロックする

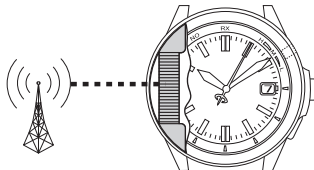
りゅうずを押し込みながら右にまわして締める。

■隠しボタンの使い方

ボタンを押すときは、先の細いものなどで押してください。

2. ご使用になる前に

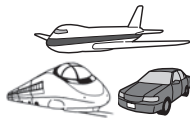
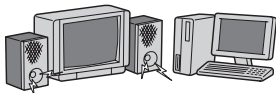
電波受信機能について

〈上手に受信をするために〉

この時計は、ケース内部（9時位置）に電波受信用のアンテナが組み込まれています。上手に受信するためには、時計の9時位置を電波送信所の方向に向けて受信するのが理想です。使用環境で受信レベルが変わってきます。時計の受信レベル「H、M、L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す、受信しやすい場所および方向を探してください。

・安定した受信をするために、時計を腕から外して、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。受信中は時計を動かさないでください。
・電波は、金属のしゃへい物や環境により受信しにくいことがあります。建物内などでは、できるだけ窓の近くで受信してください。

〈受信が困難な場所について〉

極端に高温や低温の場所

高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く

車、電車、飛行機の中

テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の電化製品や OA 機器の近く

通信中の携帯電話の近く

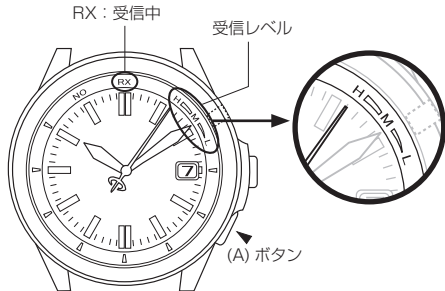
鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下

3. 電波の受信方法

電波の受信方法は**定時受信、強制受信、復活自動受信の３つの方法**があります。
電波を正しく受信すると、自動的に時刻、カレンダーが修正されます。
受信が完了すると、各針は受信した時刻へ、正転または逆転で移動します。

A. 受信の仕方

1. 定時受信（自動受信）

毎日午前２時と午前４時の２回、秒針が「RX:受信中」に移動し、自動的に受信をはじめます。

〈受信の方法〉

時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。午前２時と午前４時の２回、自動的に電波を受信します。

2. 強制受信（手動受信）

時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。
４時位置にある (A) ボタンを約２秒押すと、受信をはじめます。
＊強制受信中は時計が１秒運針するまで動かさないでください。

〈受信の手順〉

1) ４時位置にある (A) ボタンを約２秒押し、指を離します。
   ●秒針が「ＲＸ：受信中」に移動したことを確認してください。
2) ９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

3) その後、秒針がＲＸから受信中を示す「Ｈ、ＭまたはＬ」に移動します。
4) 受信が完了すると、秒針が「Ｈ、ＭまたはＬ」から１秒運針に移行します。

3. 復活自動受信（自動受信）

充電不足で時計が止まった後、時計に光を当て十分に充電されると、一度だけ自動的に受信を行います。

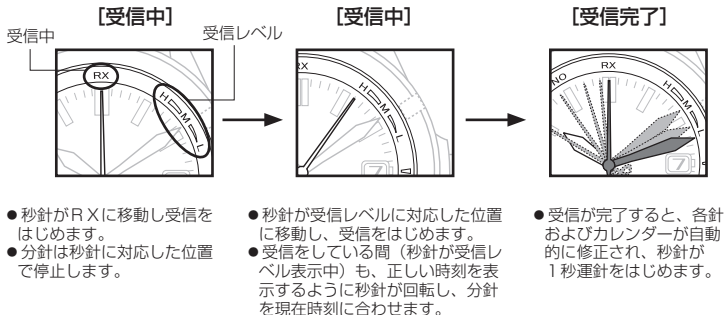
〈受信の方法〉

９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の直射日光が当たり、かつ電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

B. 受信中の秒針の位置

- 秒針がＲＸに移動し受信をはじめます。
- 分針は秒針に対応した位置で停止します。

- 秒針が受信レベルに対応した位置に移動し、受信をはじめます。
- 受信をしている間（秒針が受信レベル表示中）も、正しい時刻を表示するように秒針が回転し、分針を現在時刻に合わせます。

- 受信が完了すると、各針およびカレンダーが自動的に修正され、秒針が１秒運針をはじめます。

注意：受信中まれに受信局が切り替わり、秒針が「ＲＸ：受信中」に移動し、再度受信を開始する場合があります。

〈受信に要する時間〉
受信にかかる時間は、約２～ 13 分です。ただし、受信中に受信局の自動切り替えが行われると、最大約 15 分かかります。受信に失敗した場合は、約 90 秒で通常表示にもどる場合があります。

注意：受信中は、秒針が「RX：受信中」から「H、M または L：受信レベル」に移動します。
受信が完了すると、秒針が１秒運針にもどります。１秒運針するまで時計を動かさないでください。

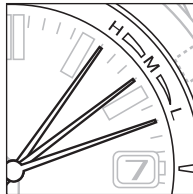
C. 受信結果の確認方法

- 受信完了後（A）ボタンを１回押すと､秒針が高速で「H､M､LまたはNO」へ移動し､受信結果が確認できます。
  注意：（A）ボタンを２秒以上押し続けると、強制受信を開始します。
- 受信結果は 10 秒間表示し、自動的に現在時刻にもどります。また、表示中に（A）ボタンを押しても現在時刻にもどります。

〈受信結果〉

- **受信が成功すると**：受信結果にもとづいて、自動的に時刻、カレンダーを修正し、１秒運針をはじめます。
- **受信に失敗すると**：受信前の時刻、カレンダー表示から受信にかかった時間を追加した時刻にもどり、１秒運針をはじめます。

D. 受信レベルと受信結果

電波受信中は受信状況に対応した受信位置に秒針が待機して、受信レベルを表示します。受信後は（A）ボタンを押すと、受信結果が確認できます。

「H、M、L」は受信レベルを指すものであり、性能には影響はありません

受信レベル	受信中レベルおよび受信結果
H	受信環境が非常に良い状態で受信中または受信したとき
M	受信環境が良い状態で電波を受信中または受信したとき
L	受信環境が良くない状態で電波を受信中または受信したとき
NO	受信に失敗したとき

＊電波を正しく受信しても、電波の受信環境や時計内部処理により、時刻表示に若干のずれが生じる場合があります。

E. 受信可能地域の目安

この時計は、標準電波の自動選局機能つきです。受信可能地域の目安は次の通りです。ただし、時間帯や季節変化、天候（雷など）などにより、電波状況が変化し受信可能地域が変化する場合があります。
受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲でも受信できない場合があります。

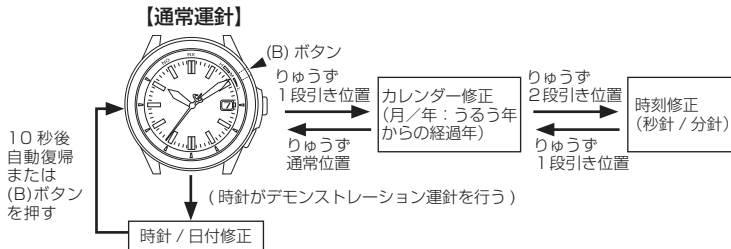
〈電波送信所〉
- おおたかどや山標準電波送信所（福島局）
- はがね山標準電波送信所（九州局）

日本国内の標準電波はほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。標準電波の送信状態の確認は、情報通信研究所機構・日本標準時プロジェクトのホームページ（http://jjy.nict.go.jp/) をご覧ください。

標準電波は、人体や医療機器には一切影響がありません。

日本に２カ所ある標準電波送信所から送信される標準電波は、10万年に１秒の誤差と言われるセシウム原子時計をもとに「独立行政法人情報通信研究機構」により管理運営が行われています。

4. 手動による時刻、カレンダー合わせ

この時計は、海外など電波が届かない地域で使用する場合に、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域にもどったときは、定時受信または強制受信を行ってください。
りゅうずおよびボタン操作で次のように修正状態が替わります。

A. 秒針と分針を修正する手順

〈修正手順〉

1) りゅうずを2段引き位置にします。
- 秒針が正転または、逆転で0秒位置まで高速運針し、停止します。
- 0秒位置で停止しない場合は、本文の「基準位置の合わせ方」を参照し、「基準位置合わせ」を行ってください。

2) りゅうずを回して「分針」を合わせます。
①右に回す（1クリック）と秒針が時計回りで1回転し、分針が1分運針します。
②左に回す（1クリック）と秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分逆転します。
- りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると、秒針と分針が連続運針します。
- 連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意
- 分針に連動して時針も運針するため、秒針と分針を連続運針して時針を合わせることができます。また、時針に連動してカレンダーも切り替わります。
- 2月 30 日や4月 31 日などの非存日は自動的に早送りします。早送り中は秒針と分針が 12 時で待機し、時針が連続運針し非存日を早送りします。

3) 時報に合わせて、りゅうずを通常位置にもどしてください。

B. 月と年（うるう年からの経過年）を修正する手順

〈修正手順〉

1) りゅうずを１段引き位置にします。
- カレンダーの修正状態になり、秒針が記憶している「月」と「年」の位置に移動し、停止します。

2) りゅうずを回して、「月」と「年」を合わせます。
①右に回して（１クリック）、「月」と「年」に対応した位置に秒針を合わせます。
②左に回す（１クリック）と、秒針が逆転します。
- りゅうずを連続回転（２クリック以上）すると、秒針が連続運針します。
- 連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

（例）うるう年の 12 月の場合：０秒の位置に秒針を合わせます。
うるう年から３年経過した年の４月の場合：23 秒（４時と５時の間）の位置に秒針を合わせます。

注意：りゅうずを１段引きしたときの月と年から、秒針を２周以上回して修正しようとすると、秒針が２周回った時点でストップし、自動的にもとの月と年の表示にもどります。

3) 月と年修正後、りゅうずを通常位置にもどしてください。秒針が現在時刻にもどり、運針を開始します。

〈非存日に合わせた場合〉

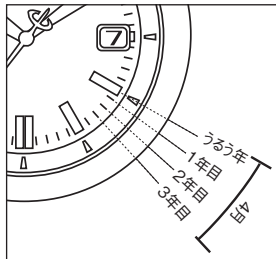
日付を合わせた後、月を変更し日付が非存日になった場合、修正状態からりゅうずを通常位置にもどすと、日付が自動的に翌月の１日に切り替わります。

〈月と年の見方〉

●月の見方

１月： １時と２時の間
２月： ２時と３時の間
：
12 月： 12 時と１時の間

●年の見方

うるう年： 各月のゾーンの最初の目盛り
うるう年から１年目： 各月のゾーンの１目盛り目
うるう年から２年目： 各月のゾーンの２目盛り目
うるう年から３年目： 各月のゾーンの３目盛り目

〈うるう年からの経過年早見表〉

経過年	年
うるう年	2016、2020、2024
1 年目	2017、2021、2025
2 年目	2014、2018、2022
3 年目	2015、2019、2023

C. 時針と日付を修正する手順

- 日付は時針に連動しているため、単独では修正できません。時針を連続運針して切り替えます。
- 時針と日付の修正は (B) ボタンを押し、時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針した後、10 秒間または時針修正後、時針が止まってから 10 秒間修正ができます。10 秒間りゅうずまたはボタンいずれの操作も行われないと、自動的に通常表示にもどります。

〈修正手順〉

1) りゅうずを通常位置にします。

2) (B) ボタンを1回押すと、時針がデモンストレーション運針後、「時針」と「日付」の修正状態に移行します。

3) りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると、時針が連続運針します。時針が2回転すると、日付が1日分切り替わります。当日の日付を表示するまで時針を連続運針させてください。
   - 連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
   - 「日付」は午後 10 時頃から午前3時の間に切り替わります。
   - 「月」が小の月に設定されている場合､「日付」を 30 日から 31 日に切り替えても、非存日は自動的に送られ翌月の1日を表示します。

4) りゅうずを回して「時針」を合わせます。
   ①右に回す（1クリック）と、時針が1時間分運針（時計回り）します。
   ②左に回す（1クリック）と、時針が1時間分逆転（反時計回り）します。
   - りゅうずを連続回転すると、時針が連続運針します。
   - 連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意：時刻修正するときは、午前、午後に注意して合わせてください。「日付」が切り替わったときが午前0時です。

これで手動による時刻とカレンダー合わせは終了です。

- りゅうずがねじロックりゅうずの場合は、時針の運針終了後（日付が切り替わっている場合は、日付の切り替わり後）(B) ボタンを押して、あるいは 10 秒以上経ってからりゅうずを押しながらねじをきちんと締めてください。運針終了後、すぐにりゅうずのねじ締めを行うと、時針と日付の修正状態が継続しているため、時針が運針し時間がずれてしまいます。

〈通常ご使用時のカレンダーの切り替わり時間〉

- **月と年**：1日の0時 00 分 00 秒で切り替わります。
- **日　付**：午後 10 時頃から午前3時の間に切り替わります。

5. 光発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。
一度充電完了すると、通常の使用状態（パワーセーブが作動しないとき）では約６カ月間時刻を刻み続けます。なおパワーセーブが作動しているときは、約２年間となります。

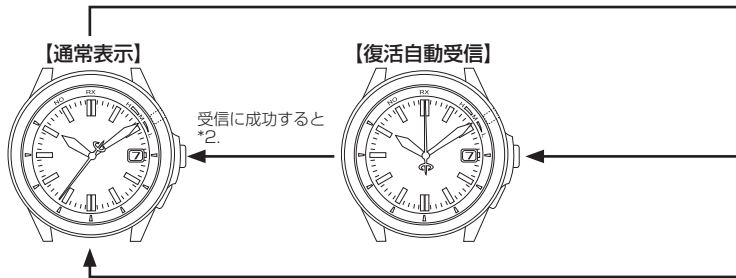
〈この時計の上手な使い方〉

この時計を快適にご使用いただくためには、常に余裕を持って充電することを心がけてください。充電は**文字板（ソーラーセル面）**に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。この時計はどんなに充電しても時計が破損することはありません。
充電の際は、文字板（ソーラーセル面）に光を当ててください。

〈時計は常に充電を心がけてお使いください〉

- 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。特に冬場は、月に一度くらい時計の文字板面に直射日光を当てて充電することをおすすめいたします。
- 時計を外したときも、できるだけ時計の文字板（ソーラーセル面）に太陽光の当たる窓際等の明るい場所に置くように心がけると、常に充電を続け時計は正しく動き続けます。

6. エコ・ドライブ特有の機能について

この時計は、充電不足になると時計の表示が次のように切り替わります。

*1. 充電不足で停止した場合、十分光を当てても復活自動受信を行うまで、最短で約 30 分かかります。
*2. 復活自動受信に失敗した場合は、充電不足で停止したときの時刻、カレンダーにもどり動きはじめます。この場合は、1 秒運針していますが、時刻がずれているため、強制受信または手操作で時刻、カレンダーを合わせてからご使用ください。

A. パワーセーブ機能について

〈パワーセーブ〉

文字板（ソーラーセル面）に光が当たらず、発電されない状態が連続して１週間継続した場合は、時計の一部が止まり、パワーセーブ（節電状態）になります。パワーセーブ作動中も精度範囲内で時刻を刻んでいますが、パワーセーブ解除後は、強制受信を行ってからご使用ください。

〈パワーセーブの解除方法〉

ソーラーセルに光を当て発電がはじまると、パワーセーブが解除されます。

- パワーセーブが解除されると各針が高速（正転または逆転）で現在時刻にもどり、１秒運針を開始します。
- 充電不足の場合は、２秒運針をはじめます。十分充電し、１秒運針にもどしてください。

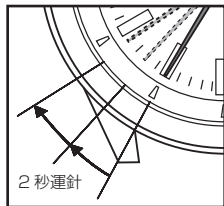
注意：

りゅうずまたはボタン操作では、パワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

B. 充電警告機能（秒針が２秒毎に動きます）

ソーラーセルに光が当らず二次電池の容量が少なくなると、秒針が１秒運針から２秒運針（充電警告機能）に切り替わり、充電不足をお知らせします。このときも時計は正確に動いていますが、２秒運針をはじめてから約６日経過すると、充電不足で時計は止まってしまいます。すぐに直射日光等を当てて十分充電し、もとの１秒運針にもどしてください。

注意：

２秒運針しているときは、手動での時刻、カレンダー修正はできません。定時受信、強制受信ともにできません。

C. 過充電防止機能

文字板（ソーラーセル面）に光が当たり、二次電池が充電完了すると、それ以上は充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。
どんなに充電しても二次電池や、時間精度、機能、性能などに影響をおよぼす心配はありません。

7. エコ・ドライブ充電時間の目安

環　境	明るさ (lx、ルクス)	充電時間（約）		
		通常に動く状態を 1日保つ	時計が停止してから 通常に動き出すまで	時計が停止してから 充電完了まで
屋外（晴天）	100,000	4 分	2 時間	10 時間
屋外（曇天）	10,000	10 分	13 時間	45 時間
30W蛍光灯の20cm下	3,000	35 分	45 時間	150 時間
屋内照明	500	4 時間	70 時間	740 時間

* 連続して照射した場合の数値です。目安としてご利用ください。

注意：
充電完了後、一度も充電されないと、持続時間は約６カ月となります。パワーセーブが作動しているときは、約２年間時刻を刻み続けます。ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心がけてご使用ください。なお、月に一度は直射日光を当てて充電されることをおすすめいたします。

8. エコ・ドライブ取り扱い上の注意

〈時計は常に充電を心がけてお使いください〉

- 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
- 時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くようにに心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠ 注意 充電上の注意

- 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので高温（約 60℃以上）での充電は避けてください。

例） • 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい場所での充電

※白熱灯で充電するときは、必ず 50cm 以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。

• 車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電

〈二次電池の交換について〉

- この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。
  ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり二次電池の容量が早くなくなります。定期的な分解掃除（有料）をおすすめします。

⚠ 警告 二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。 やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠ 警告 指定の二次電池以外は使用しないでください

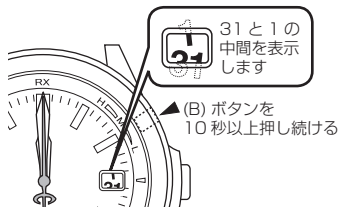
- この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

9. 基準位置の確認と修正方法

電波を受信しても時計が正しく時刻を表示しない場合は、基準位置の確認を行ってください。時計のすべての基準となる基準位置（0 位置／ 12 時位置）がずれている場合は、次の手順で各針の基準位置確認を行ってください。

A. 基準位置の確認方法

1) りゅうずは通常位置で、(B) ボタンを 10 秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。
   - 時計が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針をした後、各針が基準位置（0 位置）へ高速（正転または、逆転）で移動し停止します。
   - 時計は日付が「31 と 1」の中間を表示するまで、運針を続けます。
   - 日付は時針に連動して切り替わり、「31 と 1 」の中間を表示し停止します。

   ＊日付が逆回転（反時計回り）で切り替わる場合は「1」を表示する場合があります。
2) 基準位置を表示した後、(B) ボタンを押すと、高速で現在時刻にもどります。または、30 秒以上ボタン操作またはりゅうず操作を行わないと、自動的に現在時刻にもどります。

〈各針と日付の基準位置〉
秒針、分針、時針：0 時 00 分 00 秒
日付　　　　　：31 と 1 の間

注意：
各針および日付が基準位置を示さない場合は、基準位置合わせを行ってください。

B. 基準位置の合わせ方

1) りゅうずは通常位置で (B) ボタンを 10 秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。
   - 時針がデモンストレーション運針した後、各針が基準位置へ高速で移動し停止します。
2) りゅうずを 1 段引き位置にし、りゅうずを回して日付を「31 と 1」の中間に合わせ、時針を 12 時に合わせます。

●りゅうずを連続回転（2 クリック以上）させると、時針が連続運針します。時針が2回転すると、日付が 1 日分切り替わります。
日付が「31 と 1」の中間を表示するまで、時針を連続運針させてください。
連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

●日付が「31 と 1」の中間を表示した後､時針が 12 時を指すまでりゅうずをゆっくり回してください。

3) りゅうずを2段引き位置にし、りゅうずを回して秒針と分針を 00 分 00 秒に合わせます。

●りゅうずを回転（1クリック）させると、秒針が1秒分運針し秒針に合わせて分針が運針します。りゅうずを右または、左に回転させて、「秒針と分針」を 00 分 00 秒に合わせます。

●りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると､秒針と分針が連続運針します。
連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

4) りゅうずを通常位置にもどし、(B) ボタンを押します。

●各針と日付が高速で現在時刻にもどります。

＊これで基準位置合わせは終了です。基準位置合わせ後は、必ず強制受信を行ってからご使用ください。

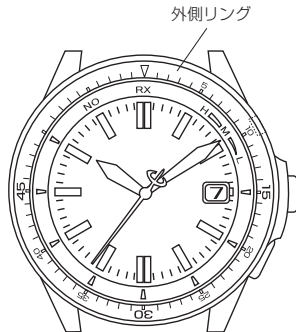
〈基準位置合わせ時のモード切り替え〉

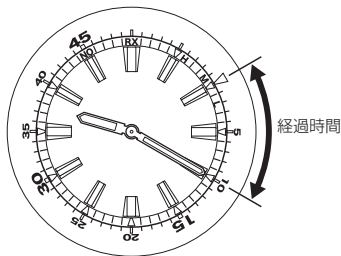
10. 故障かな？と思ったら

〈電波受信機能〉故障かな？と思ったときは、以下の項目をご確認ください。

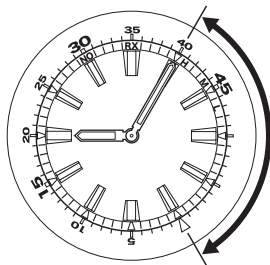
状況	確認ください	対処方法
受信を開始しない	●秒針が「ＲＸ：受信中」に移動しますか？	(A) ボタンを押し続け、秒針がＲＸ位置を指したら指を離してください。
受信できない（受信可能地域内で）	●電波をしゃへいする物やノイズを発生する物が近くにありませんか？ ●窓から遠い場所で受信していませんか？	●電波をしゃへいする物や、ノイズが発生する物を避けて、時計の９時位置を窓際に向けて受信してください。 秒針が受信レベル位置を指すように、何度か場所や、方向、角度を変えて、受信しやすい場所を探してください（ 本書の「上手に受信をするために」および「受信が困難な場所について」を参照ください)。
秒針がＲＸを指すのに受信ができない	●まだ受信中で、秒針が受信レベル「H、M、L のいずれか」を指していませんか？	●受信が終了するまで（１秒運針にもどるまで）お待ちください。
受信はできるが、時報等の時刻と合わない	●基準位置が正しくセットされていますか？	●基準位置を確認してください。基準位置が正しくない場合は、本書「9. B. 基準位置の合わせ方」を参照し、合わせ直してください。

11. 回転リングの使い方（回転リング付きの場合）

文字板外周の回転リングを使用して、ある時点からの経過時間や、決められた時間に対しての残りの時間を簡単に見ることができます。時間はあくまで目安としてご使用ください。
８時位置のりゅうずを回すと、文字板外周の回転リング（外側リング）が回転します。
また、８時位置にりゅうずがなく、リングそのものを回すタイプもあります。

＊お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

〈経過時間の測定〉
回転リングの▼印を分針に合わせてください。ある時間経過後、回転リングの目盛りによって経過時間がわかります。

経過時間：
9 時 10 分から 10 分間
経過していることを示します。

〈残り時間の測定〉

回転リングの▼印を目標時刻に合わせておくと残り時間がわかります。

12. お取り扱いにあたって

⚠ 警告 防水性能について

・時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。
（1bar は約 1 気圧に相当します）
・WATER RESIST（ANT）×× bar は W.R.×× bar と表示している場合があります。
・非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
・日常生活用防水時計（3 気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。

名称	表示 文字板または裏ぶた	仕様
非防水時計	――――――	非防水
日常生活用防水時計	WATER RESIST（ANT）	3気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST（ANT） 5 bar	5気圧防水
	WATER RESIST（ANT） 10/20 bar	10気圧防水、20気圧防水

- 日常生活用強化防水時計（5 気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスキューバ潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計（10/20 気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

	使用例				
	水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
	×	×	×	×	×
	○	×	×	×	×
	○	○	×	×	×
	○	○	○	×	×

⚠ 注意 人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では､やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては､着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意 使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず､お買い上げ店または､弊社お問い合わせ窓口へ修理､点検を依頼してください。

- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
  - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
  - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
  - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど）が外れる危険があります。

⚠ 注意 携帯時の注意

<バンドについて>

- 皮革バンドやウレタンバンド（ゴムバンド）は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ）また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド（ゴムバンド）は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。

色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
  - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
  - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)バンドの調整は、お買い上げ店にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

＜温度について＞

- 極端な高温 / 低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

＜磁気について＞

- アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

＜ショックについて＞

- 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

＜静電気について＞

- クオーツ時計に使われているＩＣは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜化学薬品・ガス・水銀について＞

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

＜保護シールについて＞

- 時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

注意 時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。
- 汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド（ゴムバンド）は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため､時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

13. 保証とアフターサービスについて

＜保証について＞

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

＜修理用部品の保有期間について＞

当社は時計の機能を維持するための修理用部品を、通常７年間を基準に保有しております。ただし、ケース･ガラス･文字板･針･りゅうず･プッシュボタン･バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

＜修理可能期間について＞

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

＜ご転居・ご贈答品の場合＞

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

＜定期点検（有償）について＞

・防水性能について
防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に永くご使用いただくために2 ～ 3 年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキングなどの交換をご依頼ください。

・分解掃除（内装修理）について
腕時計を永くご愛用いただくには分解掃除（内装修理）が必要です。歯車などの部品は永くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として 5 年に一度の分解掃除のご依頼をお勧めします。

＜修理について＞

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

＜その他お問い合わせについて＞

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

14. 製品仕様

1．**機種**：H415、H416、H417、H419
2．**型式**：アナログソーラーパワーウオッチ
3．**時間精度**：平均月差± 15 秒（非受信時）
常温（＋ 5℃〜＋ 35℃）携帯時
4．**作動温度範囲**：－ 10℃〜＋ 60℃
5．**表示機能**：●時刻：時、分、秒（時針は 2 分毎に運針します）
●日付
6．**付加機能**：●電波受信機能（定時受信、強制受信、復活自動受信）
●受信局自動選択機能（日本標準電波専用）
●受信中表示機能（RX）
●受信中レベル表示機能（H、M、L）
●受信結果確認機能
●光発電機能
●パワーセーブ機能
●充電警告機能

●過充電防止機能
●JIS1 種耐磁機能
●パーペチュアルカレンダー

7．持続時間：●充電完了後、充電しないで時計が停止するまで：
：約2年（パワーセーブが作動しているとき）
：約6カ月（パワーセーブが作動しないとき）
●充電警告表示～充電不足で時計が停止するまで：約 6 日

8．使用電池：二次電池（ボタン型リチウム電池）1 個

* 製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

HAR05S ③

CT046

CT057

CT058

CT086

http://citizen.jp/

Cal.H415

Cal.H416

Cal.H417

Cal.H419